

2009年(平成21年)1月20日 火曜日

燃料製造の
からバイオ
バイオ

台湾で普及支援

岐阜大発V Bが技術供与

【岐阜】コンティグ・

アイ(岐阜市、鈴木繁三社長、058・294・8091)は、台湾で自社のバイオ燃料製造技術を広める。台湾では政府が国家事業として同燃料を普及する計画を立てている。その達成手段として同社の技術を導入する方針を固めており、同社はこれに応じる。日本発の技術が台湾の環境、エネルギー問題解決に寄与

しそうだ。

同社は岐阜大発のベンチャー。特殊な酵素を使い、芝など非食料からエタノールを食料と同レベルの効率で製造する技術を持つ。同技術には国内外の自治体、企業から引き合いが多く来ており、台湾政府からの引き合いもその一つ。

バイオ燃料の普及が重要視されている。石油精製の国営企業、肥料製造の民間企業などがこれまで同燃料を製造してきた。だが、どの企業も技術面で問題を抱え、「コスト高になり、競争力がな

同社の技術を採用するよう働きかける。同社も要請に応じ、積極的に技術指導する。台湾には同社の技術を使ったプラントを販売する台湾可速姆(台中市)があり、事業者はプラントを供給できる体制も整えている。

台湾政府は事業者がプラントを建設する際に、政府が資金の一部を負担するという法律を整備中。法案はすでに作成され、次期国会で可決する見通し。台湾各地でプラント建設を活性化させるのが狙い。これとともにコンティグ・アイの技術の普及も加速しそうだ。

台湾では二酸化炭素(CO2)排出量削減策として、非食料由来のバ

普及には技術革新が必要で、政府としてコンティグ・アイの技術の導入を促すことにした。具体策として、同燃料事業者に